

会計プロフェッション研究科入学試験「口述試験（簿記）」出題例

問題

1. 商品売買取引において三分法で仕訳を行っているとします。以前に掛けにより売価 1,000 円で販売した商品の一部について、その後、破損していたことが判明したため、100 円の値引きを行いました。値引きを行った際にはどのような仕訳を行いますか。
2. 期末商品の原価は@110 円、時価は@100 円、実地棚卸数量は 900 個であるとした場合、どのような決算整理仕訳が必要ですか。
3. リース取引は会計上、どのように分類されますか。所有権が移転しないファイナンス・リース取引において、貸手のリース物件の購入価額が分からず、借手によるリース物件の見積現金購入価額を 100,000 円（リース料総額から利息相当額を控除した金額と同額）とした場合、リース取引開始時に借手は利子抜き法でどのような仕訳を行いますか。
4. 買掛金 20 ドルを取引時点において為替相場 1 ドルあたり 120 円で計上していたが、決算時の為替相場は 1 ドルあたり 100 円でした。決算時において必要な会計処理はどのように行いますか。
5. 貸付金の利息として受け取った利息 50,000 円について、未経過の受取利息 20,000 円を次期に繰り延べるための決算整理仕訳を行いなさい。
6. 原価 1,000 円として計上していたその他有価証券について、決算時点で時価が 1,400 円となっていました。税効果会計を考慮しない場合、どのような決算整理仕訳を行いますか。また、税効果会計を考慮し、法人税等の税率（法定実効税率）が 30%とした場合、どのような決算整理仕訳を行いますか。
7. P 社が、資本金 5,000,000 円の S 社の発行済議決権株式の 100%を 6,000,000 円で取得して支配を獲得した場合において必要な、連結修正仕訳を示しなさい。また P 社が、S 社の発行済議決権株式の 80%を 6,000,000 円で取得して支配を獲得した場合において必要な、連結修正仕訳を示しなさい。
8. 製造原価要素を製品との関連によって分類する場合、製造原価要素はどのように分類されますか。
9. 実際原価計算制度における正常な原価差異は、会計年度末において、どのように処理されますか。また、損益計算書にどのように記入されますか。
10. 製品原価の計算にあたって、製造間接費はどのように製品に集計されますか。